私のギャラリー

my gallery.

FUMIO TAKAHASHI

木工品

木材の個性を生かす

オオサンショウウオ

髙橋 富美雄 さん

Wood craft230

横手市南町19-7
https://woodcraft230.com
Instagram　@woodcraft230

●「2022 秋田ふるさと村
アート&クラフトフェア」に出店

日時／6月24日(金)～26日(日)
9:30～17:00(初日は11:00～)
会場／秋田ふるさと村(横手市)

食器、ボタン、アクセサリー、時計などを制作するほか、オオサンショウウオをはじめとする生き物、野菜や果物、ケーキなど、あらゆるものを木材で形作る木工作家の髙橋富美雄さん。「木が持つ表情が好き。同じ木から取った木材でも一つ一つに個性があって面白い。それをどう生かして具現化するか。木材の節や癖も私にとっては魅力になる。むしろ好んで使っています」。〝何を作るか〟は、製材した木の色や木目を見ながら考える。「この木はマグカップにしたらすてきだな」「こっちは皿だな」など、木材の個性を生かす見立てからものづくりを始める。

今は木工作家として活躍するが、以前は金属の仕事をしていた。金属加工会社で働いていた２００８年、姉に頼まれて人形の着物を掛ける衣桁(いこう)を制作。以来、木工にのめり込む。「子どもの頃からものづくりが好き。頼まれてボタンやバッグの持ち手を作るうち、いろんなものを作ってみたくなりました」。10年に工房を開設し、休日や帰宅後、出勤前のわずかな時間も制作や材料選びに没頭した。13年に退職し、本格的に制作を開始。県内外のクラフトイベントを中心に活動する。客からの「次はこんな商品が欲しい」との声に応え続け、作品の種類が増えた。

金属加工の経験と技術を木工に取り入れる以外に、木工用の道具を独自に制作することもある。銘木や貴重材を世界中から集め、約80種類の木材の個性を生かす。「『どうやって作っているの?』と聞かれることもありますが企業秘密はありません。どんどん公開しています」と話して笑う。自らつづるブログで制作の様子を公開している。

小皿とフォーク。ケーキのオブジェ